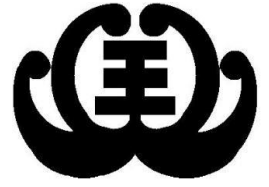


王子ヶ浜小学校
学校だより第9号

令和6年11月11日

王子ヶ浜



〒647-0031 和歌山県新宮市田鶴原町 2-10-1 TEL:0735-22-8431 校長 谷口 幸生

立冬（今年は11/7）が過ぎました。「立冬」は冬が始まる頃とされていますが、今年も暑かったですね。富士山の初冠雪の平年日は10月2日ですが、今シーズンは、11/7と1894年の統計開始以来、130年最遅記録を更新しました。季節外れの暖かさですね。でも、気がつけば日脚もめっきり短くなり、冬の訪れを感じております。冬が駆け足で近づいてきているようです。季節の変わり目、布団から出るのもつらくなってきました。くれぐれも体調には気をつけて下さい。

<運動会ありがとうございました。>

「最後まで一人一人全力で挑戦しよう!!」をスローガンに、紀州っ子エクササイズで始まり、徒競走、リレー、ダンスと、どの種目も保護者やご来場の皆様に見せたい一心で、子どもたちは頑張りました。今年は、育友会種目として綱引きが行われ、白熱しました。子どもたちもどの種目も一生懸命頑張りました。保護者の皆様も心強い応援ありがとうございました。

<おめでとうございます>

◇和歌山県ジュニア美術展覧会

《絵画の部入選》（1年）下山柚香（6年）三浦六花 《書の部入選》（4年）金嶋 優逢、峯 佑樹

◇郡学校美術展

《特選》（1年）峯あかり（4年）石橋蒼斗、伊藤寿夫（5年）安波豪希、田中耕春（6年）田伏 惇

《準特選》（1年）榎本はるのじょう（2年）門 れん、山本ことね（3年）宇井 斎、吉田宗史

（4年）三鬼和心、脇濱瑠良、和田怜桜、中村 薫（5年）岡本 柊、大前進二郎、和田美月、古川侑果

（5年）松本友結、丸山紗生（6年）野間敬太

<全国学力・学習状況調査の結果について>

結果では、国語の平均正答率が「本校 66%和歌山県 68%全国 67.7%」算数の平均正答率が「本校 60%和歌山県 64%全国 63.4%」となっている。県平均との差は、国語 2 ポイント算数 4 ポイントと下回る結果となった。課題としている記述式の平均正答率は、国語が 62.7%、算数が 45.8%であった。「物語を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く」という問題では、正答率が 72.9%（無答率 18.6%）で、「目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」という問題では、正答率が 52.5%（無答率 11.9%）であった。

「折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件にあてはまることを言葉と数で記述する」という問題では、正答率が 35.0%（無答率 23.3%）で、「道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについてどちらが速いかを判断し、そのわけを書く」という問題では、正答率が 23.3%（無答率 3.3%）であった。記述式問題の他に、基礎的基本的な知識が定着していないことによる不正解もあった。国語では「競技」という漢字の書き取りの正答率が 28.8%（県平均 49.7%）であった。算数では、「直径 22 cm のボールがぴったり入る箱の体積を求める」という問題で、たて×よこ×高さの公式が適用できない児童が多く正答率 23.3%（県平均 33%）であった。国語の記述式では条件を全て含んで書けていないことや無答による不正解が多かった。また、算数の記述式においても条件を全て含んで書けていないことや無答による不正解が多いことなどが今回の課題であると考えます。

○課題解決に向けて今年度取り組んでいること

- ・ドリルタイムを活用して基礎基本の定着をはかる。家庭学習においては、年度初めに「家庭学習のてびき」を配布し、約束や内容、ねらいなど家庭と学校で連携しながら児童の学力向上を目指していく。
- ・研究主題を『「伝え合う力の育成」～考えや思いを交流する場を通して』と設定し、国語科の授業づくりを通して伝え合う力を定着させる研究を行う。授業づくりの際、交流の場をより効果的な場面に意図的に設けることを重視している。また、児童が楽しんで取り組めるような課題の出し方や、交流相手の選ばせ方についても留意し、主体的に交流活動に取り組ませる中で伝え合う力を身につけさせていきたいと考えている。「どのように伝えれば分かりやすいのか」「相手に納得してもらえるような 伝え方の工夫」等について習得させ、結果、学力調査等で文章を用いて説明する問題に児童が積極的に取り組み、正答率を上げるという成果を期待している。